



証券コード：4526

個人投資家の皆様へ

理研ビタミン株式会社 説明会

2025年1月29日

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれます。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに当社が計画・予測したものです。
実際の業績などは今後の様々な条件・要素により、この計画などとは異なる場合があります。
この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

- 1. 会社概要**
2. 株価
3. 歴史と理念
4. 事業内容
5. 今後の見通し

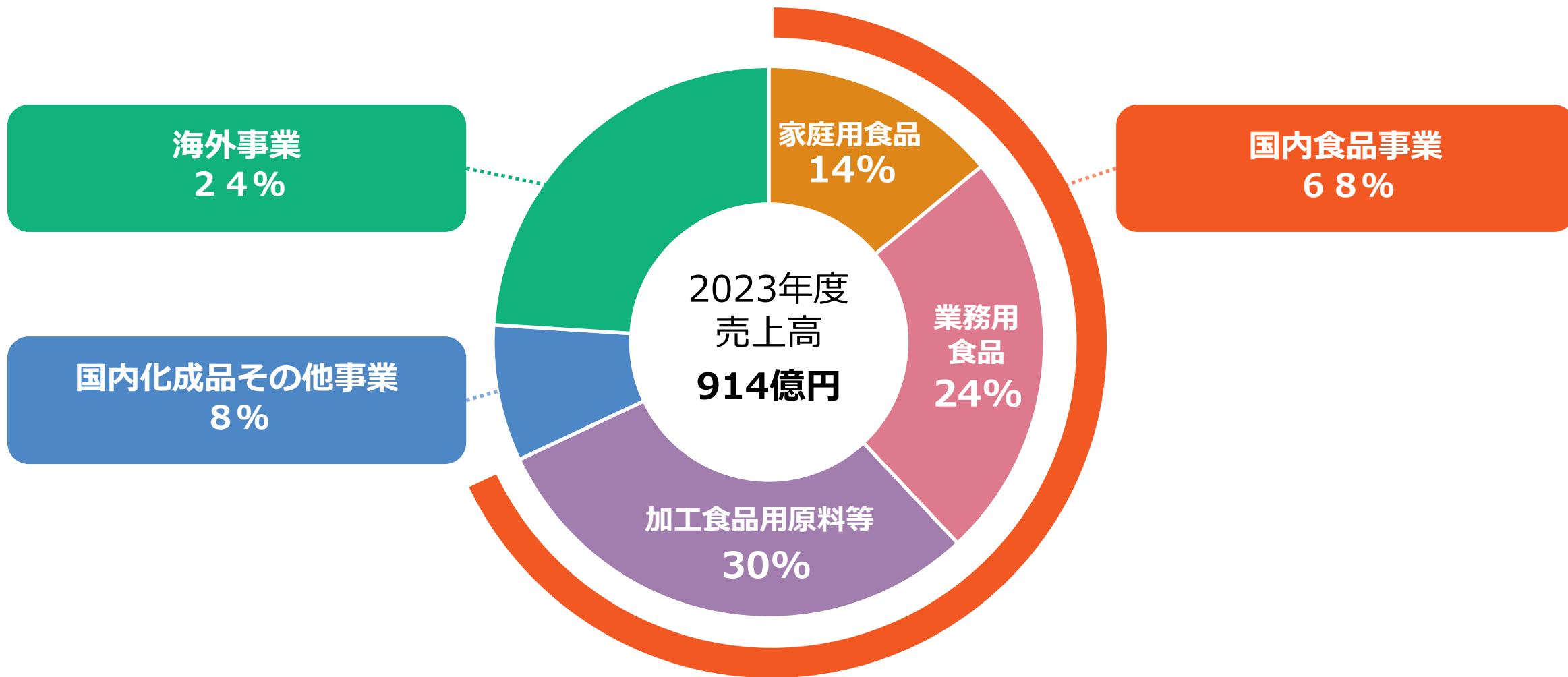
東証プライム市場上場の食品メーカー

創業からの売上高推移

商号	理研ビタミン株式会社
設立年月	1949年 8月
資本金	25億3,700万円
従業員数	966名（連結1,857名）
事業内容	家庭用食品、業務用食品、加工食品用原料、食品用改良剤、化成品用改良剤、ビタミン類などの製造・販売
拠点数	国内12（本社、さいたまオフィス、支店5、工場5）
連結子会社	国内4、海外8
売上高	914億円

（2024年3月末現在）

BtoBが8割以上、海外は4分の1



3分野の製品を展開

食品

- 海藻
- エキス・調味料
- ドレッシング

改良剤

- 食品用改良剤
- 乳化剤
- ビタミン（酸化防止）
- 色素
- 化粧品用改良剤

ヘルスケア

- ビタミン（栄養強化）
- 機能性食品用原料
- マイクロカプセル

ノンオイル
ドレッシング



シェアNo.1

インスタント
わかめスープ



シェアNo.1

ほたてエキス



シェアNo.1

家庭用国産
乾燥わかめ



シェアNo.1

食品用乳化剤



シェアNo.1

クチナシ黄色素



シェアNo.1

ビタミンE



シェア40%以上

売上構成比が最も高いのは改良剤分野



国内食品事業

家庭用食品

- リケンのノンオイル
- ふえるわかめちゃん®
- わかめスープ
- 素材力だし®



業務用食品

- エキス・調味料
- 海藻類
- ドレッシング
- 食品用改良剤
- ビタミン



加工食品用原料等

- 食品用改良剤
- ビタミン
- 機能性食品用原料
- マイクロカプセル



国内化粧品その他事業

- 化粧品用改良剤
- 飼料用添加物



海外事業

- 食品用改良剤
- 化粧品用改良剤
- エキス・調味料



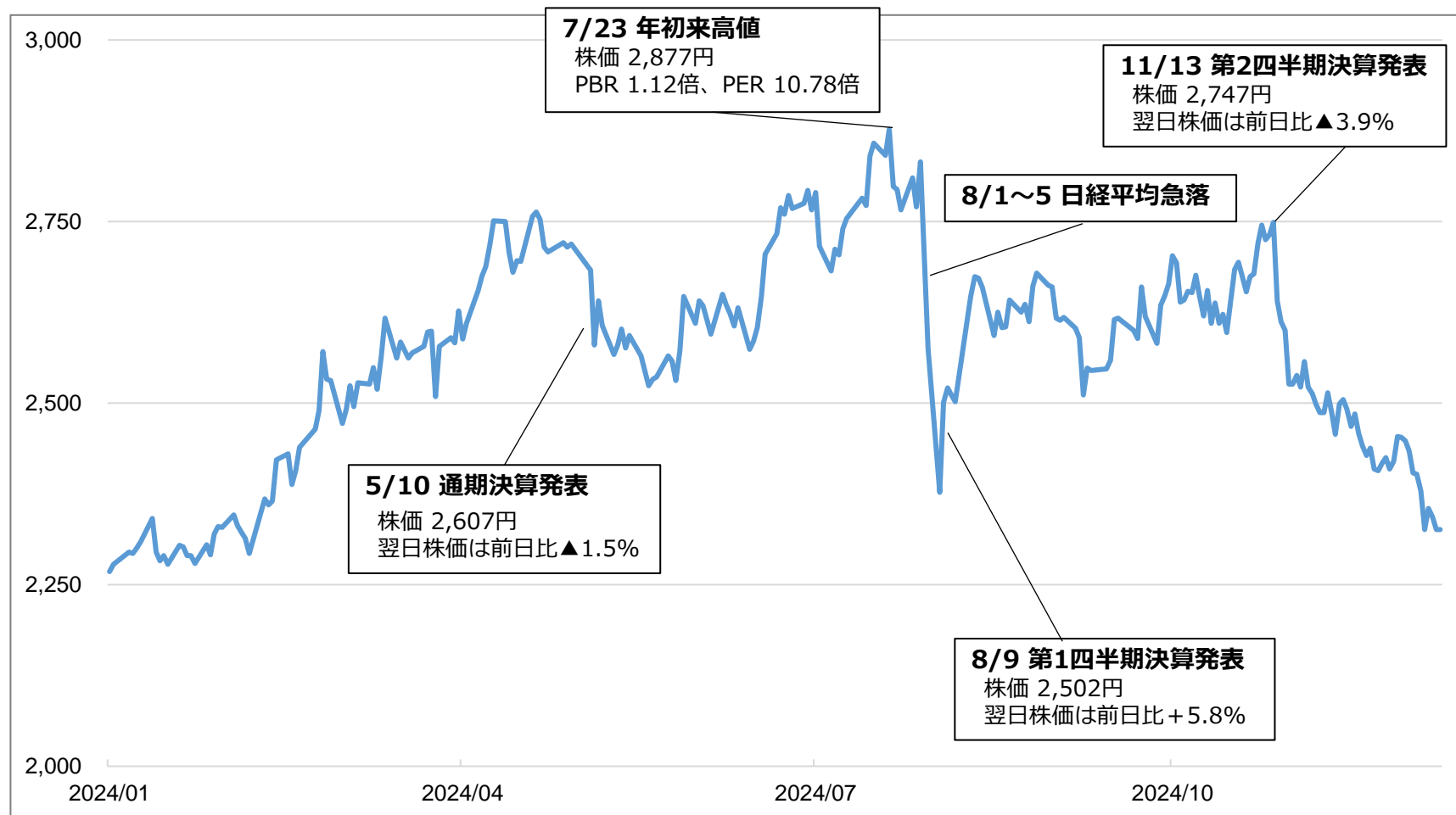
主な販売製品

1. 会社概要
- 2. 株価**
3. 歴史と理念
4. 事業内容
5. 今後の見通し

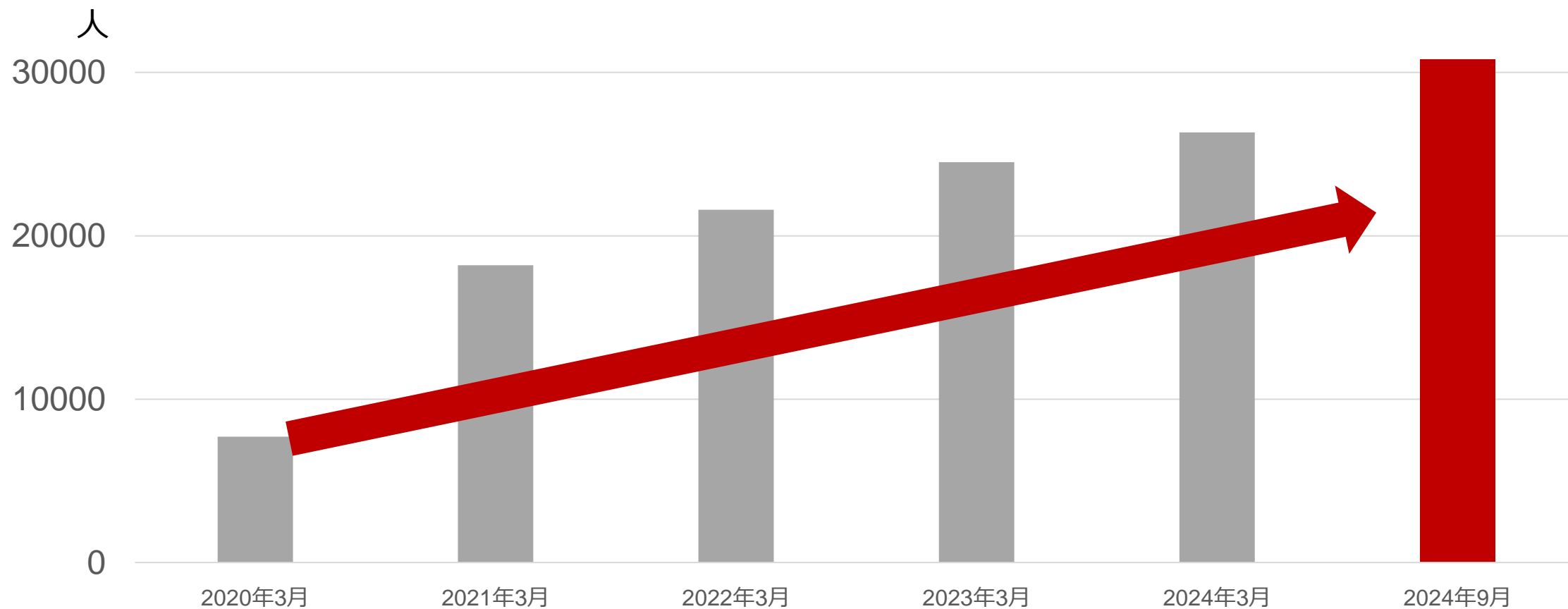
株価はセクター内比較で割安

- 株価 (1/19) 2,326円
- 時価総額 706億円
- PBR 0.9倍
(食料品平均1.6倍*)
- PER 8.7倍
(食料品平均19.5倍*)

*セクターの値は東証発表
24年12月末 加重平均



4年前に比べ4倍に増加



保有株式数・保有期間に応じて自社商品を贈呈

- 贈呈回数は**年2回**
- 保有株式数および保有期間に応じて株主優待品がランクアップ

基準日	発送時期
3月31日	6月
9月30日	12月



2,000円相当の商品例 (2024年12月発送)

■ 保有株式数・保有期間の基準

保有株式数	保有期間3年未満	保有期間3年以上
100株以上、500株未満	1,000円相当	2,000円相当
500株以上、1,000株未満	2,000円相当	3,000円相当
1,000株以上、3,000株未満	3,000円相当	4,000円相当
3,000株以上	4,000円相当	5,000円相当

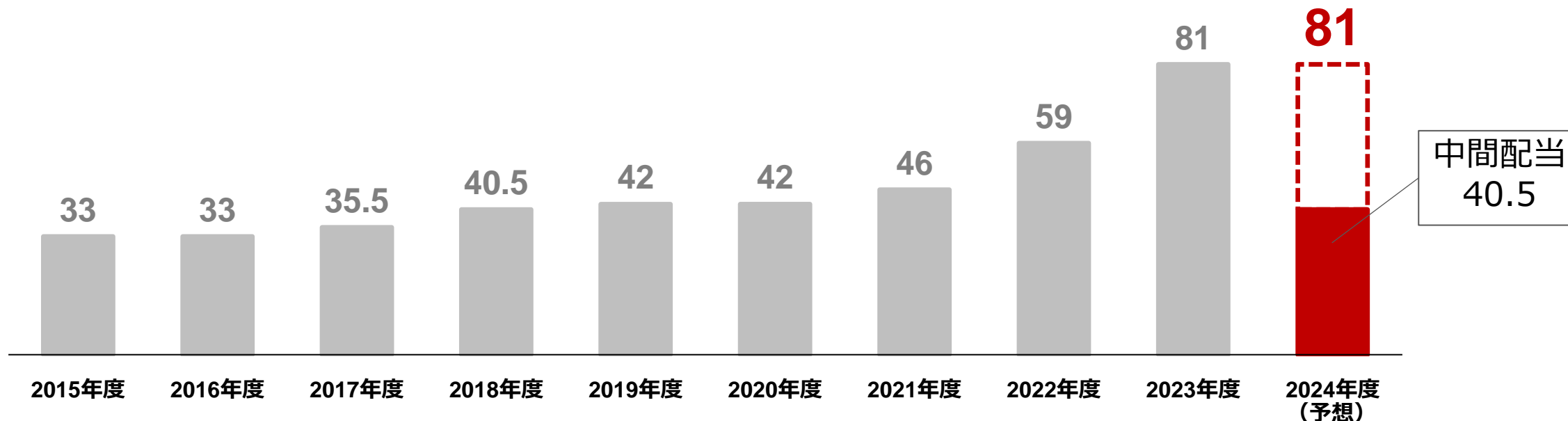
条件の詳細は当社[ウェブサイト](#)をご覧ください

配当性向30%以上を目安、配当利回りは3.48% *2025年1月17日終値基準

配当方針

経営環境、業績、財務状況、株主還元性向、経営基盤強化のための内部留保等を総合的に勘案しながら、**連結配当性向30%以上**を目安に安定的な配当を継続して実施

■ 1株当たり年間配当金(円)



※2020年4月の株式分割後の水準で記載しています。

1. 会社概要
2. 株価
- 3. 歴史と理念**
4. 事業内容
5. 今後の見通し

理化学研究所の天然ビタミンA事業が原点



▲ビタミンA製品のポスター

- 戦前、理化学研究所が研究成果を製品化する事業会社を多数設立
- その一社から天然ビタミンA事業を引き継ぎ理研ビタミン油(株)※を設立（1949年）

※1980年、理研ビタミン(株)に社名変更

設立当初は

天然ビタミンAメーカー

魚の内臓からビタミンAを抽出・精製・濃縮



合成ビタミンAの台頭により多角化路線へ

1950年代



海外メーカー

合成ビタミンAの
量産に成功

大量

安価



事業継続の危機

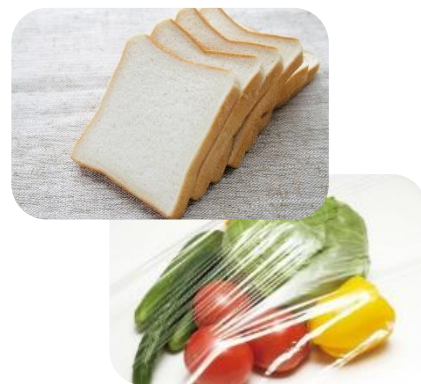
■ 天然ビタミンA事業で培ったもの

- 有効成分の抽出・精製・濃縮技術
- 水産関係者との人脈
- ビタミンに関する知見

これらを活かして新規事業を模索

天然物の有効利用と独自の技術で多角化

改良剤



高純度の乳化剤
「蒸留モノグリセライド」を
日本で初めて製造

分子蒸留技術※

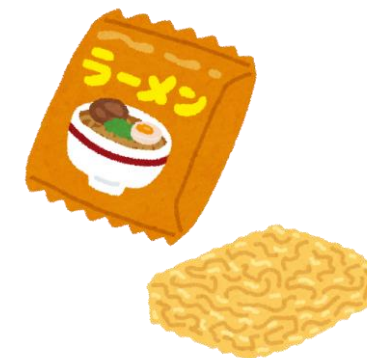
※ビタミンAの精製・濃縮技術

- 多くの用途を開発
- 化成品に応用
- 多様な改良剤へ

食品



- 商業捕鯨が盛ん
- 鯨肉の加工後に残った肉を
エキスに利用



即席麺のスープ

抽出・精製・濃縮技術



魚の内臓



ビタミンA

企業理念

天然物の有効利用を図る技術と商品で、
人々の健康と栄養に寄与し、社会に貢献する

創業当時



現在



食品事業



改良剤事業



ヘルスケア事業

1. 会社概要
2. 株価
3. 歴史と理念
- 4. 事業内容**
5. 今後の見通し

国内食品事業① 家庭用食品

製品分野別売上構成比

食品 100%

●ドレッシング



●わかめ関連商品



●スープ



●だしの素



●レトルト



国内食品事業② 業務用食品

製品分野別売上構成比

ヘルスケア 5%

改良剤 17%

食品 78%

外食産業・学校給食・産業給食向け

大容量品や家庭用にはない
商品群をラインナップ



加工食品メーカー・コンビニ向け

ニーズに合わせ、調味料などを
原料として供給



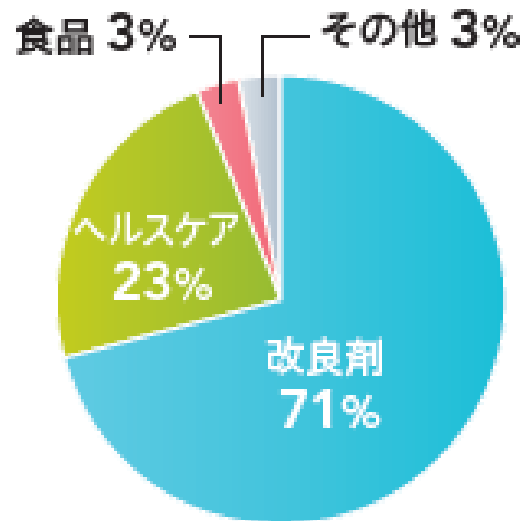
ラーメンスープ

スナックシーズニング

おにぎり用わかめ

国内食品事業③ 加工食品用原料等

製品分野別売上構成比



加工食品メーカー向け

改良剤でさまざまな食品に付加価値を提供



やわらかく



ほぐれやすく



彩り豊かに

健康食品・医薬品メーカー向け

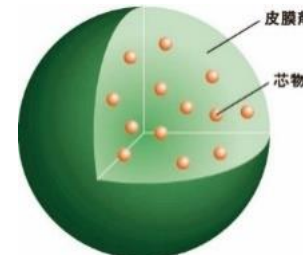
機能性成分の供給や加工を通じて健康に貢献



ビタミン



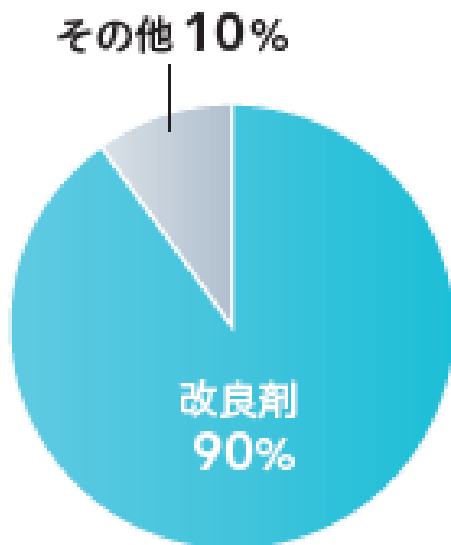
機能性食品用原料



マイクロカプセル

国内化成品その他事業 食品用改良剤の知見を樹脂などに応用

製品分野別売上構成比



食品用包装材向け



- ラップなどの曇りを防止
- 静電気を抑制
- 硬い樹脂をやわらかくし、成型加工しやすく

自動車部品向け



- 静電気を抑制し、電子機器の不具合を防止
- 成型加工時に金型から離れやすく

建築資材向け



- 押し出し成型時の滑りを改善

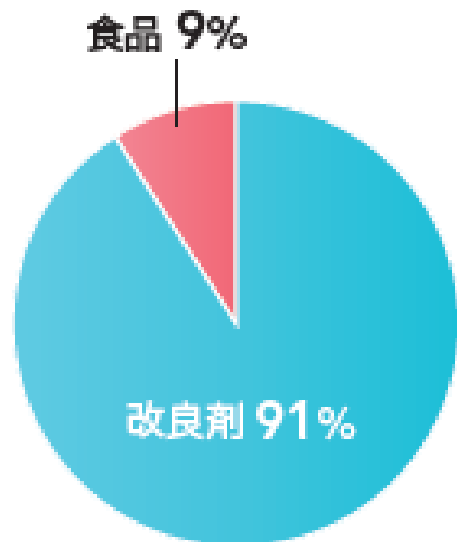
化粧品・トイレタリー製品向け



- クレンジング剤の洗浄力アップ
- ハンドソープの増粘

海外事業 改良剤を中心にBtoBで世界へ展開

製品分野別売上構成比



バリューチェーン	研究開発	調達	生産	流通・マーケティング・販売	顧客・消費者
強み	研究開発力	天然物の調達ルート	天然物を有効活用する技術	ソリューション力	幅広い顧客基盤 家庭用商品のブランド
強化のための取り組み	独自の研究開発体制 <ul style="list-style-type: none"> ● 製品分野ごとの研究開発部門で知見を蓄積 ● 研究発表会による知見の社内共有 ● A&Iセンターと海外アプリケーションセンターの連携 高い研究開発費率 <ul style="list-style-type: none"> ● 売上高研究開発費率：3.6% <small>東証プライム市場食品セクター 当社を除く67社平均：約1.0% ※2024年3月までに終了した直近決算期</small>	安定調達の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ● 漁業会社・漁協との連携によるわかめの大規模養殖の支援 ● 種苗供給による海藻の安定調達 ● サプライヤーとの連携強化 社内体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ● 関連部署との連携による開発購買の推進 	海外工場の生産能力増強 <ul style="list-style-type: none"> ● 中国：食品用改良剤新工場建設 (2025年4月稼働開始予定) ● 米国：ポークエキス製造設備増強 (2026年夏稼働開始予定) 国内工場の再構築 <ul style="list-style-type: none"> ● 東京工場：新ビタミンミックス棟建設 (2025年秋稼働開始予定) <small>※プロジェクト全体の完了は2027年度の予定</small>	幅広いソリューション提供 <ul style="list-style-type: none"> ● 提案力強化 部門を跨いだ人事異動で幅広い商品知識を持つ営業員を育成 ● 提案幅強化 生産時のロス低減と最終製品の廃棄低減の双方向から提案を推進 海外でのソリューション提案強化 <ul style="list-style-type: none"> ● 理研ビタミンUSA アプリケーションセンターの開設 (2024年6月) 	

1. 会社概要
2. 株価
3. 歴史と理念
4. 事業内容
- 5. 今後の見通し**

売上高を除く目標は1年前倒しで達成

	2022年度実績	2023年度実績	2024年度予想	当初計画
売上高	887億円	914億円	925億円	940億円
営業利益	71億円	93億円	85億円	80億円
経常利益	77億円	102億円	90億円	82億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	64億円	87億円	81億円	65億円
ROE	9.3%	11.8%	10.4%	8%以上

期中平均レート：2022年度136円/\$、2023年度145円/\$

5月発表に向けて現在策定中

統合報告書2024 社長メッセージ

- ✓ 海外を成長ドライバーとしてトップラインを伸ばす
- ✓ 国内は生産性の向上に向けた設備投資
- ✓ より資本効率を意識した成長戦略を打ち出したい

リンク: [統合報告書2024](#)

社長メッセージ



「天然物の有効利用を図る」
ポリシーのもと、付加価値の高い製品・サービスの提供を通じて、
オンリーワンの存在を目指します

代表取締役社長
山本 一彦

社長メッセージ



「既存の市場ではなく、少しずつらしめたカテゴリーで
開発することで他社との差別化をし、新たな市場をつくる」

また、改良分野では、お菓さまの課題を的確に把握し、それに合わせた提案を行い、顧客につなげるソリューションビジネスを展開しています。最先端技術のさらなる向上に向けた取り組みは、企業全体の成長の一歩を踏み出し、その解決策を開発することを目指しています。また、改良分野と食品をトータルで提案することにより、国内市場の深掘りを進めています。

社長メッセージ



「食品用改良剤の技術によりおいさを長持ちさせることができれば、
お客さまへの価値提供ならびにフードロス削減につながる」

中期経営計画2年目の振り返り
2023年度は増収増益、売上高・営業利益・経常利益は過去最高を更新

当社は2022年に、中期経営計画として持続可能な社会をスベリシヤリな製品とサービスで支え、成長する会社となることを掲げました。当社のDNAである「天然物の有効利用を図る」ポリシーのもと、付加価値の高い製品・サービスを提供する事業活動を通じて、持続可能な社会に貢献するオンリーワンの存在となることを目指しています。

この2023年度の業績に向けた最初のステップとなる中期経営計画(2022-2024年度)では、従来の成長への高品質化と投資を進めています。業績は順調に推移し、売上、営業利益・経常利益は過去最高を更新し、利益については中期経営計画の目標年度目標を前倒しで達成しました。国内食品事業は、外食業向けの糖質低減や加工食品メーカー向けの改良剤の供給拡大策、家庭用食品にお

ける「ふりかけのザクザクわかめ」や「インカカレー」原産地の「糖ドレッシング」のヒットにより、増収増益となりました。一方、海外事業は、2022年度はサブイネーションの成長に伴い増収と増益の上昇に伴う増収増益が実現し、増収増益となりました。2023年度は、その反動もあり、減収減益となりました。しかし、海外事業は成長ドライバーとしてトップラインを伸ばしていく考えに変わりはありません。 **【P.25(中期経営計画)**

中期経営計画2年目の振り返り
2023年度は増収増益、売上高・営業利益・経常利益は過去最高を更新

また、改良分野では、お菓さまの課題を的確に把握し、それに合わせた提案を行い、顧客につなげるソリューションビジネスを展開しています。最先端技術のさらなる向上に向けた取り組みは、企業全体の成長の一歩を踏み出し、その解決策を開発することを目指しています。また、改良分野と食品をトータルで提案することにより、国内市場の深掘りを進めています。

「天然物の有効利用を図る」
ポリシーのもと、付加価値の高い製品・サービスの提供を通じて、
オンリーワンの存在を目指します

また、改良分野では、お菓さまの課題を的確に把握し、それに合わせた提案を行い、顧客につなげるソリューションビジネスを展開しています。最先端技術のさらなる向上に向けた取り組みは、企業全体の成長の一歩を踏み出し、その解決策を開発することを目指しています。また、改良分野と食品をトータルで提案することにより、国内市場の深掘りを進めています。

また、改良分野では、お菓さまの課題を的確に把握し、それに合わせた提案を行い、顧客につなげるソリューションビジネスを展開しています。最先端技術のさらなる向上に向けた取り組みは、企業全体の成長の一歩を踏み出し、その解決策を開発することを目指しています。また、改良分野と食品をトータルで提案することにより、国内市場の深掘りを進めています。

社長メッセージ

「再整理したマテリアリティを羅針盤として、
サステナブル経営を推進し、実効性を高める」

人的資本の質化に向けて
自由流動な雇用の創成、
次世代リーダーの育成に注力します

持続的な成長を実現するために重要なのは、より人材です。そのため、多様な人材が活躍できる自由流動な雇用の創成と、次世代リーダーの育成に注力しています。

また、改良分野では、お菓さまの課題を的確に把握し、それに合わせた提案を行い、顧客につなげるソリューションビジネスを展開しています。最先端技術のさらなる向上に向けた取り組みは、企業全体の成長の一歩を踏み出し、その解決策を開発することを目指しています。また、改良分野と食品をトータルで提案することにより、国内市場の深掘りを進めています。

また、改良分野では、お菓さまの課題を的確に把握し、それに合わせた提案を行い、顧客につなげるソリューションビジネスを展開しています。最先端技術のさらなる向上に向けた取り組みは、企業全体の成長の一歩を踏み出し、その解決策を開発することを目指しています。また、改良分野と食品をトータルで提案することにより、国内市場の深掘りを進めています。

また、改良分野では、お菓さまの課題を的確に把握し、それに合わせた提案を行い、顧客につなげるソリューションビジネスを展開しています。最先端技術のさらなる向上に向けた取り組みは、企業全体の成長の一歩を踏み出し、その解決策を開発することを目指しています。また、改良分野と食品をトータルで提案することにより、国内市場の深掘りを進めています。

また、改良分野では、お菓さまの課題を的確に把握し、それに合わせた提案を行い、顧客につなげるソリューションビジネスを展開しています。最先端技術のさらなる向上に向けた取り組みは、企業全体の成長の一歩を踏み出し、その解決策を開発することを目指しています。また、改良分野と食品をトータルで提案することにより、国内市場の深掘りを進めています。

また、改良分野では、お菓さまの課題を的確に把握し、それに合わせた提案を行い、顧客につなげるソリューションビジネスを展開しています。最先端技術のさらなる向上に向けた取り組みは、企業全体の成長の一歩を踏み出し、その解決策を開発することを目指しています。また、改良分野と食品をトータルで提案することにより、国内市場の深掘りを進めています。

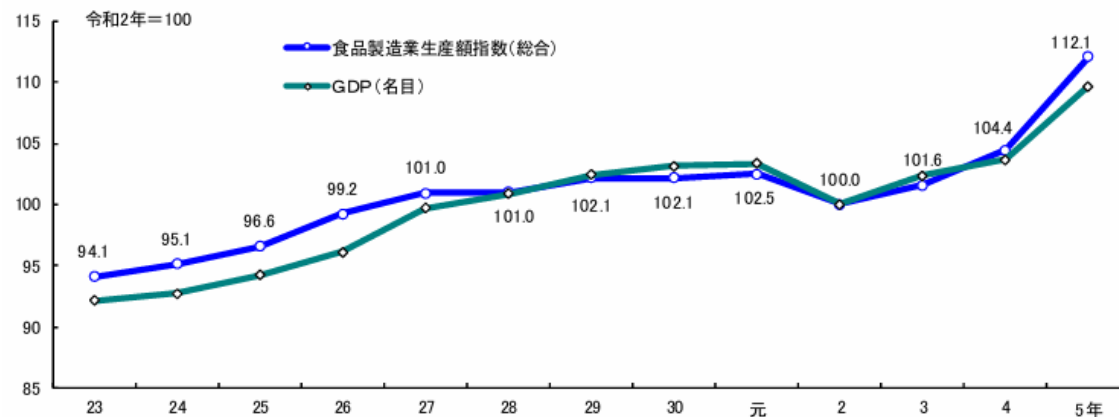
加工食品市場はゆるやかに伸びると予測

図 1-20 人口及び世帯数の推移



資料：総務省「国勢調査」、「人口推計月表」、「住民基本台帳」より作成。
注：人口は各年10月1日現在で令和3年は概算値。世帯数は各年1月1日現在。

図 1-1 食品製造業生産額指数（推計）及びGDPの推移

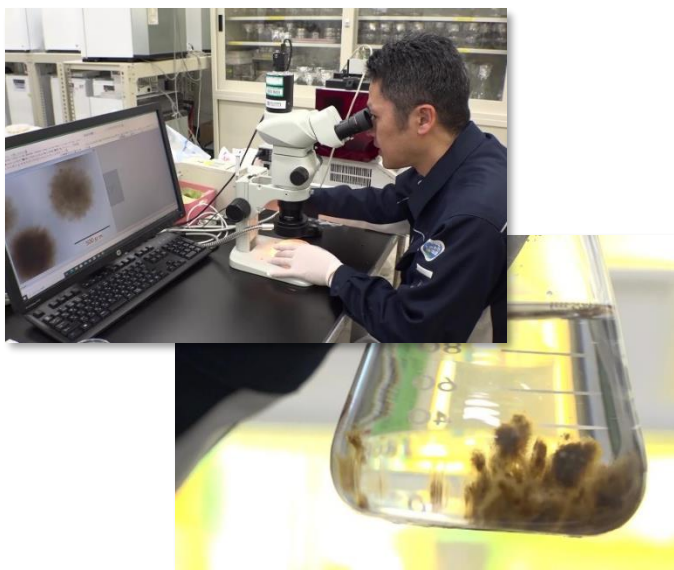


資料：GDP（名目）は内閣府「国民経済計算」。
注1：図中のGDPは令和2年＝100として算出。
注2：食品製造業生産額指数（総合）は、P35の食品製造業生産指数（総合）に、日本銀行の企業物価指数（飲食料品）を乗じて算出。令和5年は暫定値。

（出典）農林水産省 食品製造業をめぐる市場経済動向

海藻研究や包材の見直しでサステナビリティに貢献

海藻種苗の研究



- 海水温上昇の影響を受けにくい種苗を選抜
- わかめの成果をもずくや他の海藻へ展開

ブルーカーボンの研究



- 当社グループが関係する研究が相次いで国の委託事情に採用
- 産業実装に向けてオープンイノベーションを推進

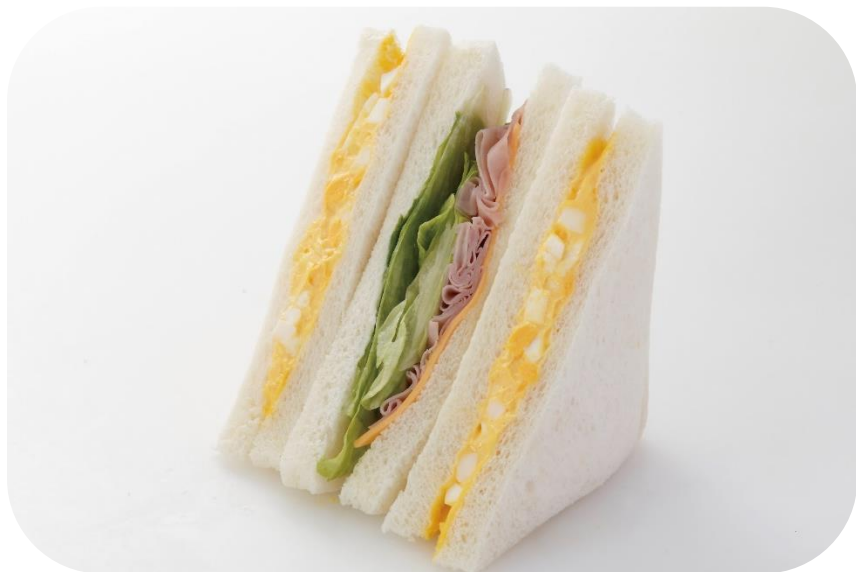
環境に配慮した包装容器の採用



- これまでわかめやドレッシングなどの包装を見直し
- ふえるわかめちゃんの商品の広告が日経MJ広告賞大賞を受賞

フードロス削減や環境対応に貢献

食品用改良剤



- 時間が経ってもおいしさをキープ
▶ **流通後のロス削減**
- 生産効率の改善（型崩れ防止、製造設備への付着防止など）
▶ **生産工程でのロス削減**

化成品用改良剤



- 植物由来成分で石油由来成分を代替
- バイオマスプラ、生分解性プラ向けの改良剤を開発・提案

▼
サーキュラーエコノミー実現に貢献

地域に合った成長戦略を実行

中国・天津に食品用改良剤の
新工場を建設

(2025年4月稼働開始予定)



オクラホマ州 ポークエキス工場の生産能力を増強
(2026年夏稼働開始予定)



タイ、ベトナムに販売子会社を新設
(2025年春予定)



ロサンゼルスにアプリケーションセンター※を開設
(2024年6月)



※食品用改良剤の研究開発や試作提案を行う施設

<中長期ビジョン（2022-2030年度）>

**持続可能な社会を
スペシャリティな製品とサービスで支え、
成長する会社になる**



理研ビタミン株式会社